

2010年（平成22年）

ハタハタ情報 No.2

平成22年10月27日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

—インターネットからもご覧いただけます— ↓

マリンネット北海道 : <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp>

調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2010年10月21日～10月22日

【調査海域】 雄冬岬沖の水深200～260mの海域にて、6調査点でトロールを曳網しハタハタの採集試験を行いました。計314尾の標本を採集し、体長測定などを実施しました。

- 1マイル曳網あたり47.2尾の採集。
- 魚体サイズは体長160～200mmが主体で、2歳魚（2008年級）が全体の約64%、1歳魚（2009年級）が約34%を占める。
- 成熟の進行状況から、沿岸への来遊見通しは11月中旬頃が目安。

1. ハタハタの分布状況（図1）

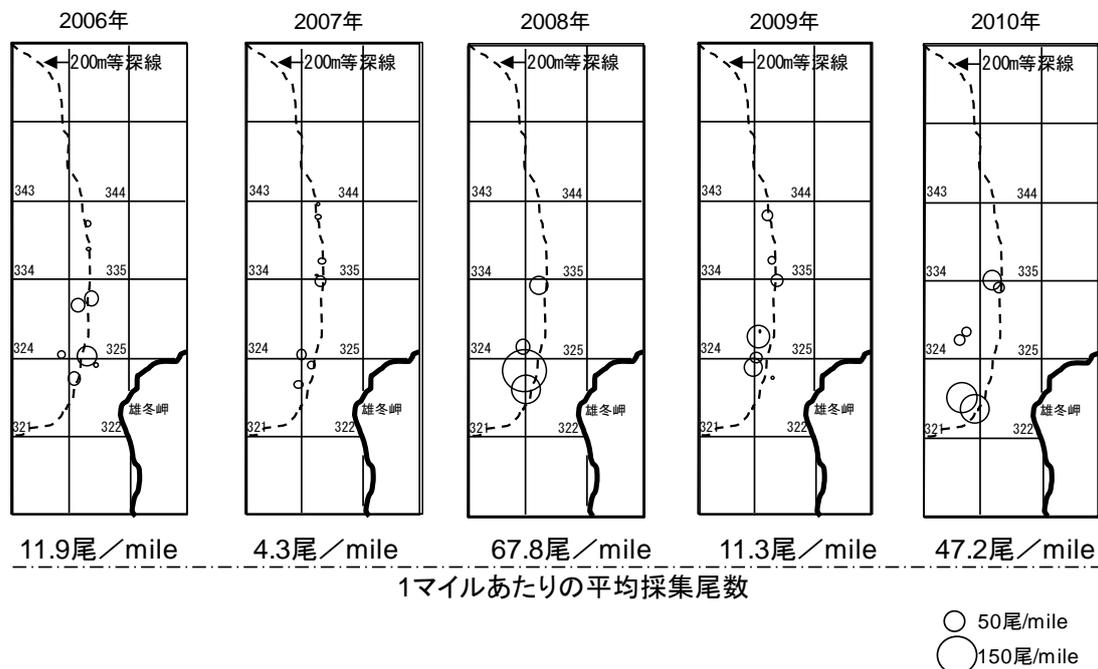


図1 10月下旬トロール調査による採集尾数（注：2009年までは中央水試調査船おやしお丸による調査結果。漁具規模が異なる。）

今回の6調査点におけるハタハタの平均採集尾数は1マイルあたり47.2尾と、調査船と漁具が異なる2009年以前の結果とは比較が難しいものの、2008年に次いで比較的多く採集されました。採集量が多かったのは321海区の水深220～260m、底層水温1.6～2℃の海域でした。

2. ハタハタの魚体サイズ (図2)

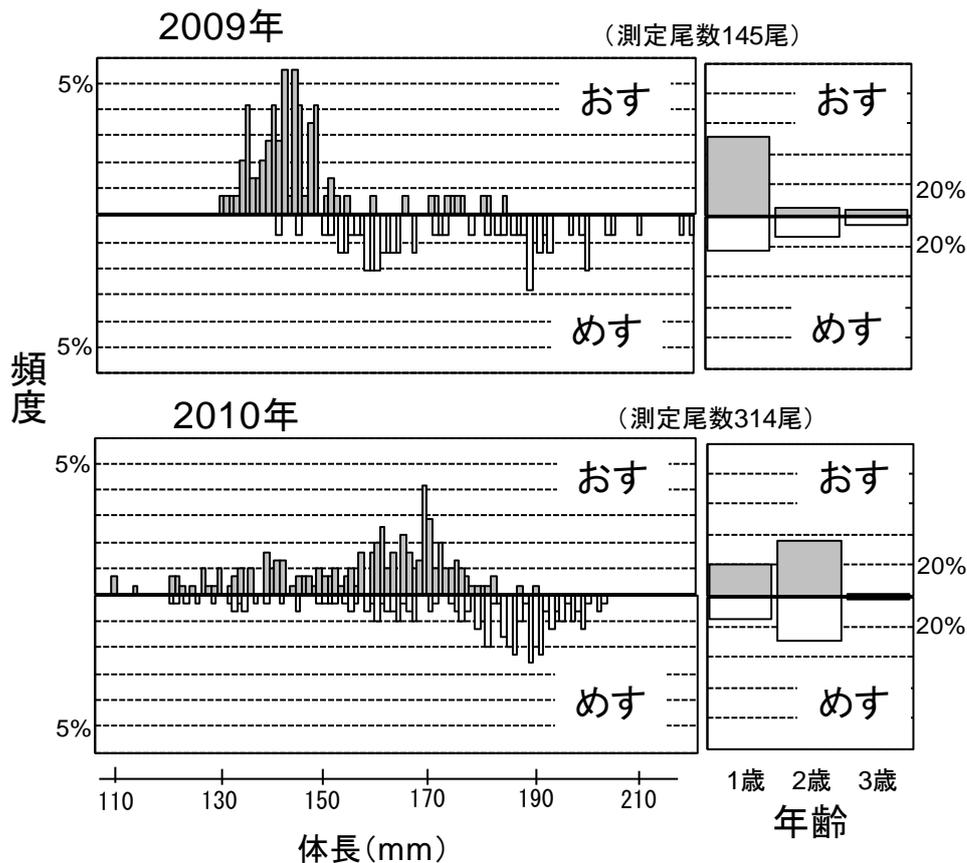


図2 今回10月下旬の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成
 上段図：昨年(2009年)調査 下段図：今回の調査

今回の調査で採集されたハタハタの体長も、9月調査(ハタハタ情報 No.1)の結果と同様に、昨年同時期の調査結果と比べると大型であり、雄で160~180mm、雌で170~200mm主体となっていました。耳石による年齢査定の結果、2歳魚(2008年級)が全体の約64%、1歳魚(2009年級)が約34%でした。

なお、前報や実践協議会でも報告しましたように、1歳魚(2009年級)については、例年と比べ小型で明瞭なモードがなく、雌雄とも100~160mmの範囲に散らばっているという状況が今回の調査でも認められました。やはり、雄で体長130mm、雌で140mmに満たない個体の成熟は進んでおらず、これらの未熟魚は今漁期には産卵せず、沿岸漁場には来遊しない見込みです。1歳魚のうち成熟している個体の割合は雌雄込みで約74%でした。

3. 成熟状態 (次頁、図3)

ハタハタは成熟状態(生殖巣の発達状態)が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合(GSI)は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40%前後の値となります。今回の調査で採集されたハタハタ雌のGSIは、10月21~22日の時点で、1歳魚で16.2%、2歳魚で23.5%でした。2歳魚については近年の値と同程度、1歳魚は成熟が遅れています。沿岸への来遊時期は、今後の海況などにも影響されますが、ここ2~3年と同じく、11月中旬頃が目安と考えられます。

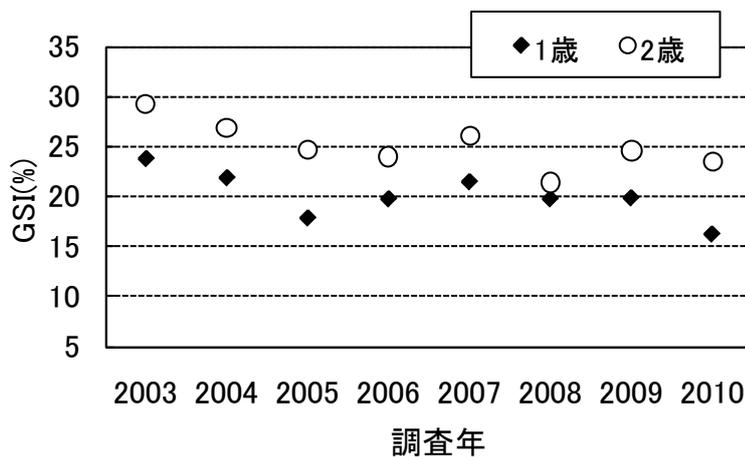


図3 毎年10月下旬のハタハタ雌のGSI
(GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

4. 水温 (図4)

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖(321漁区北側)の表層から底層にかけての水温測定結果を、過去4年間の平均値と併せて示しました。水深40m前後までは例年より高めの水温分布となっておりますが、それより深いところでは、例年の傾向とほぼ同様の水温分布となっております。

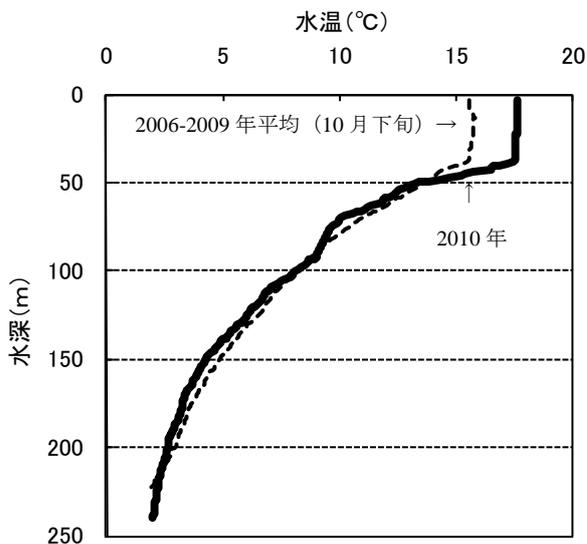


図4 雄冬沖の水温分布
(10月下旬)

5. 今後の調査など

今年度の雄冬沖における調査船によるトロール調査は終了です。関係漁業者の皆様、調査へのご配慮ありがとうございました。今後は、各漁業による漁獲物の標本採集調査などを実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。